

ふるさと活動隊 2017 in 鳥取



活動概要

- 東京からスタートし、青春18きっぷを使用しながら明治大学創立者の一人である岸本辰雄初代校長の上京ルートを通り、出発地点とされている米子に集合します。(飛行機や新幹線は使用しません)
- 米子からは岸本先生の生家のあった鳥取市に向け、主に徒歩と路線バスで鳥取県内を横断します。
- 道中は住民、観光客にアンケートやインタビューを行いながら進み、岸本先生胸像前のゴールを目指します。
- ゴール後はインタビューやアンケートの結果を鳥取県へ提出し、報告を行います。また、県内大学生と地方創生をテーマに意見交換会を行います。

目的

- 岸本辰雄先生の生い立ちや、明治大学創立までの歴史を学び、大学のルーツを知ること
- 鳥取県までの道のりを実際に体験し、さらに県内住民や大学生との交流をおし地域に親しみながら県内を巡ることで、参加者自身が創立者のふるさとを「自分の新たな“ふるさと”」として捉え、地域の抱えている問題に向き合い、地域活性化のお手伝いを行うこと
- 明治大学の3名の創立者やその出身地、ふるさと活動隊の知名度を上げること

日程

<事前学習・事前調査>

- 7月7日：オリエンテーション、創立者についての学習会
- 14日：事前調査（グループワーク）
- 29日：出発前ガイダンス（各種提出物受付、ルート確認、目標確認）

<現地体験>

- 8月27日：青春18きっぷを使用し出発、米子へ
- 28日：米子駅集合
- 29日：米子から湯梨浜町へ、徒歩・路線バス使用（距離59km）
- 30日：湯梨浜町から鳥取市へ、徒歩・路線バス使用（距離36km）
- 31日：鳥取県へアンケート結果を渡し、報告会
県内大学生との意見交換会
- 9月1日：魚のさばき体験、現地解散、各自自由行動

ミッション

- 青春18切符を使用して、米子駅に集合！ ➡ 2・3枚目へGO！
- 米子駅から鳥取市まで、徒歩と路線バスで移動！ ➡ 3～8枚目へGO！
- Twitter等でふるさと活動隊の動きを実況し、アクセス数を稼ぐ！
- 岸本辰雄先生の知名度調査、PR活動 ➡ 10枚目へGO！
- 鳥取県からのお題「ガイドブックにはない(徒歩だからこそ分かった)鳥取の魅力発見」 ➡ 6・7枚目へGO！
- とにかく楽しむ！！ ➡ 最後までご覧ください！

Follow me!

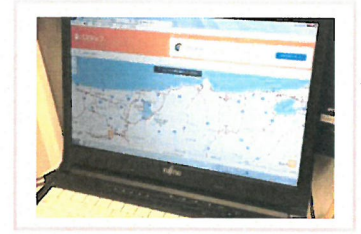


Ex)

○事前学習

一日目！

- ・メンバーのはじめての顔合わせ
- ・明治大学創設者の歴史授業
- ・プロジェクトの詳しい説明



二日目！

- ・メンバー五人全員集合
- ・鳥取調査ルートの事前調べ

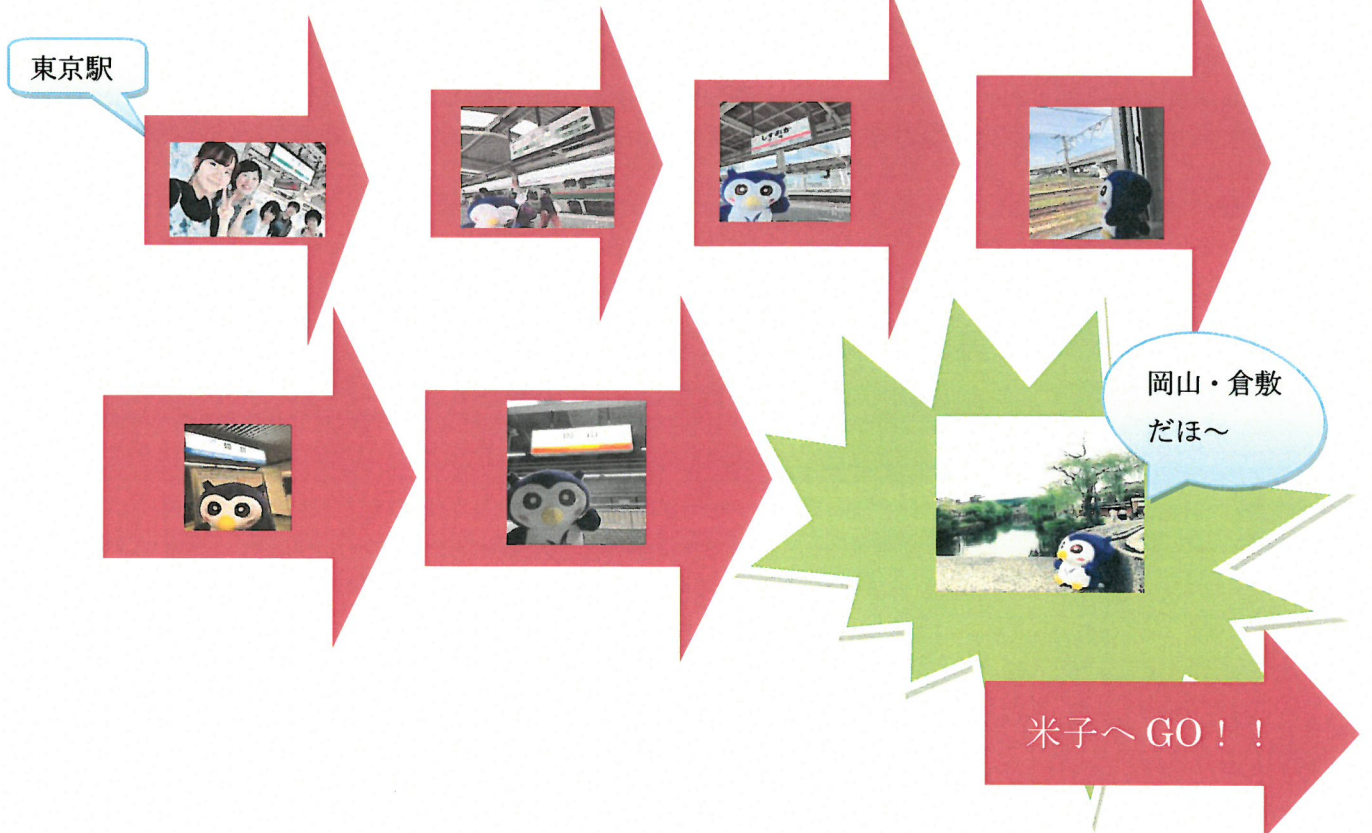


三日目！

- ・ルート最終確認
- ・集合時間など詳細の決定



○東京から米子までの道のり



現地体験ルート in 鳥取



1 織房

- ・歩いている途中で偶然発見しました。
- ・三つの顔をもっています。
→着物のリメイク・ゲストハウス・手織りセラピー
- ・地域活性化のための活動をしています。
- ・突然の取材にも快く応じてくれました。



↑HP

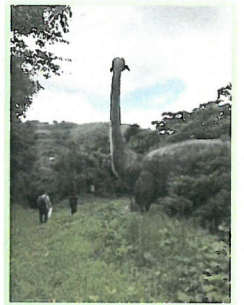


2 中原醤油店

- ・こちらも歩いている途中で偶然発見しました。 ↑HP
- ・大正六年から続く由緒ある醤油店です。
- ・地元の人からも愛されていて、全国からもネットで注文されています。
- ・道の駅やJAの直売所で売られています。
- ・イカ用やお刺身用などタイプの違う醤油があります。
- ・急な訪問にも関わらず、丁寧に答えていただきました。
- ・お土産に醤油をいただきました。



3 潮風の丘とまり



中原醤油店さんにきれいな風車があると教えてもらい、やってきました。大きな白い風車、高台から眺める広々とした海、グラウンドゴルフのふるさとということで緑がきれいな芝生、スーパースライダー、そして恐竜たち。今回はスーパースライダーには乗れなかったのですが、シュールな恐竜の模型が印象的でした。恐竜たちはクオリティーが高く、自然の中で本物のようにたたずんでいました。ワイヤーでつるされているものもあり、リアルでとても面白かったです。しおかぜの丘にたどり着くまではかなり厳しい道をのぼっていましたが、その先の開放感あふれる絶景となんだかユニークな恐竜たちに出会えてよい時間でした。人がたくさんいるわけではなかったので、リラックスしたいときや小さな子供たちの遊び場にぴったりだと思いました。

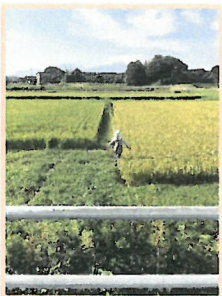


過酷な道

私たちは鳥取を西から東へと徒歩とバスで横断しました。普段気づかないであろうスポットを見つけたり、地元の人と親しくなったりといったことは実際に歩いてみたから得られた貴重な経験でした。しかし、徒歩は正直やっぱりきつかったです。まず、人がいない！家がない！山、畑、海しかない！暑かったり、土砂降りにあったり…。その中で特に過酷だった2つのウォーキングタイムを紹介したいと思います。

4 下市入口バス停（大山町）～赤崎駅（8.4 km）…暑い！！

初めてのウォーキングタイムでした。はじめから道路と山しかなく、予想以上の光景に驚きながら進みました。この日はとても暑かったです。時間がおしてしまっていたので、いそぎめ黙々と足を動かしました。コンビニもほとんどなく、自動販売機のありがたみを感じました。終盤、とてもかわいいひまわり畑を見つけて元気が出ました。



明治大学創立者のふるさと活動in鳥取

@mizuoka_tokushima

ギリギリ！ポート赤崎へ行くバスに乗れました！！
暑さで汗がすごいです！

写真は赤崎駅手前のひまわり畑です！



5泊駅～浜村駅（13 km）…海と山しかない！！

この旅の最長ウォーキングタイムでした。はじめは取材の人がいてなんだか楽しく進んでいました。目の前に海が広がり、素晴らしい景色を楽しめました。写真もたくさん撮りました。しかし、ずっと海！ずっときれいな海です！あとは何もないというときに突然現れたカレー屋さん（海辺のカフェ&ペンション Del Mar）は絶対忘れないと思います。海の後、今度は山の中を進みました。周りの木を見る余裕もなくずっと道を見ながらひたすら上りました。海と山が共存する鳥取を存分に味わえました。



HP



6県庁発表



私たちは、米子～鳥取市までの旅の成果を鳥取県庁にて発表しました。多くの関係者の方にお集まりいただき、私たちが発見した「ガイドブックには載っていない鳥取の魅力」を報告しました。



また、実際に鳥取の地を歩き、その中で私たちが見て、聞いて、感じたことを伝えることができました。

そして、多くの方の支えがあってこのプロジェクトが成り立っていることを改めて感じました。



県庁発表スライド

お題：ガイドブックにはない(徒歩だからこそ分かった)鳥取の魅力発見

<1日目> 絵本作家がデザイン!...「米子湯」

<Key Word>


- イラストが可愛い
- 実感が湧く
- キャラクターが可愛い
- デザインが可愛い
- イラストが可愛い
- 実感が湧く
- キャラクターが可愛い
- デザインが可愛い



3つの顔を持つリメイク屋さん...「織房」

●3つの顔とは

- ①着物のリメイク
- ②ゲストハウス(Airbnb)
- ③手織りセラピー

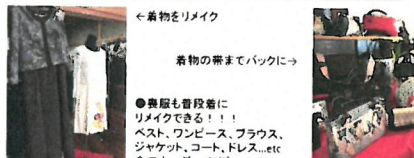


①着物のリメイク

着物の帯までバックに→

●奥服も着役着にリメイクできる!!!

ベスト、ワンピース、ブラウス、ジャケット、コート、ドレス、etc 全てオーダーメイド!!!



②ゲストハウス(Airbnb)

- ・下市駅に近い
- ・自転車3台まで無料で貸せる
- ・宿泊料 1部屋3500円
- ・海外のホームステイも受け入れる
- ・Airbnbにも登録



③手織りセラピー

- ・日本産糸を見ながら、好きな糸で織れる(心を癒す)
- ・織りあがった作品は、バックや洋服に仕上げてもらえる



店主さんのお話

【Point】

- ・こんな良いロケーションはない!!
- ・近くに大山、前に日本海
- ・このあたりは地域活性化に努力中
- ・今は大山スキーで賑わいが戻りつつあるが、観光客が戻らない
- ・この地域を多くの人に知ってもらいたい
- 努力が報いられるのが嬉しい
- このままでは報いられない



道で見つけた...「カ石」

- ・昔、村の青年たちが石でカバをした
- ・お祭りの準備は身がたす
- ・住宅街に交差し始めた
- ・歩いていけば気づかなかった



【知らなかった!】~止まれマーク~

●車の運転から戻ると、止まれマークは、止まれマークに似ている

●車の運転から戻ると、止まれマークは、止まれマークに似ている

●車の運転から戻ると、止まれマークは、止まれマークに似ている



<2日目> 足湯と湖の美しさに癒される! 町のパン屋さん...「ぱにーに」

- ・足湯
- ・モーニング500円
- ・豪華なランチメニュー
- ・かわいいうい、例に良いパン
- ・目の前に湖、湖がきれい



醤油うことか! 美味さの秘密! ...「中原醤油店」

- ・数軒かけて商品開発
- ・「醤油ではゼロ」の精製(開発も)
- ・大豆から作る醤油
- ・イカ用やお刺身用のタイプの醤油
- ・和元の人からも愛されている、全国からネットでも注文されている
- ・道の駅や道の売場で売られている



絶景が見れる恐竜の丘... 「グラウンドゴルフの里 潮風の丘とまり」

- ・「グラウンドゴルフの里」と公園
- ・恐竜の像、恐竜の中に入る
- ・絶景の景色
- ・レストラン
- お茶の道(徒歩)→美しい湖を眺めながら、食事ができる
- 帰りの道(徒歩)→車がない限り、恐竜が現れる



目の前に海が!! オシャレなCafe~お土産に本を~ 「海辺のカフェ Del Mar(デルマー)」

- ・ウエストスーツ
- ・チキアツク
- ・カフェの看板
- ・サーフ・スノーボード
- ・ペンション
- ・お土産の専門店
- ・4名以上からお土産買値10%オフ



感想

1日目(8/29 米子~倉吉)

- ・衣裳がサザエさんみたいで、開けっ放しで歩いて治安が良いのだろう
- ・ソーラーパネルが付いている+好買買える=自給自足
- ・レンタサイクルがあったら観光に生かせるし、歩きが手段がない人にも活用できる(向山にポートサイクリングがあって)
- ・歴史を推かいたところで伝えようとする意欲が目立たない(歴史の紹介が書かれた看板が立っている)
- ・物の見知れなかったけど、なんでもかきこいで自分たちで面白いと思えるポイントが見つかった(池田家とか)

感想

- ・琴浦町至バスやタクシー等、交通が不便だとしても県や市が何年かかけている努力を感じた
- ・エスカレーターは走らなくても立ってよいと聞いて、鳥取はゆったりしているのだと感じた
- ・人が少ないからこそ親切にしようとする姿勢を感じた
- ・鳥取の人は優しい。インタビューをお断りしても断らない、無抵抗な
- ・帰ると親切に答えてくれるが、おもてなしの面で観光客をあまり大切にしない
- 観光客を地元の人と同じように扱うのは、良い面でも悪い面でもある

感想

2日目(8/30 倉吉~鳥取)

- ・食う人みんな挨拶をしてくれて、東京にはない温かきを感じた
- ・小学生の男の子(辛い子)に挨拶されて嬉しかった
- ・泊から浜村あたりまでの海沿いの国道9号は車が多いと移動が難しいと実感した(バスがない)
- ・長い距離を歩いたけど景色が綺麗だったから疲れが軽減された(無心になった)
- ・鳥取では地味な元気にしようとする人がちらちらいる
- ・地元には歩いてこようとする子供がいる
- ・海はきれいだが、なににもない

感想

- ・何も無いようなところで話を聞いてみたら、自分たちの想像を越えた驚きや発見が多く見つけた
- ・2日目を通して、歩いてからこそおまがに付けて米子・倉吉・鳥取といったそれぞれの地区の特色の移り変わりを感ぜられた
- ・インタビューの中で人が少ないからこそその良いところがあり、そんな鳥取が好きという声を聞き、変える必要はないのかもかもしれないと思った

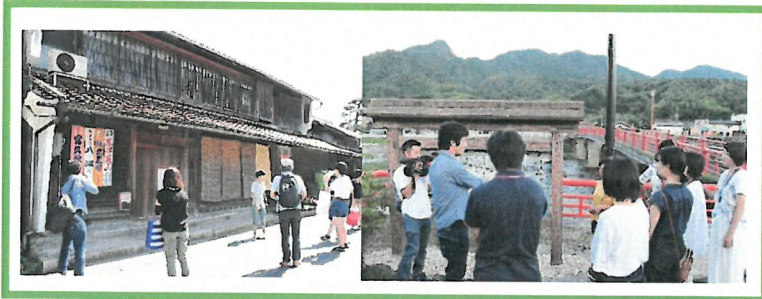
BBQ!

カヌー!

川の hotori 用瀬!



もちがせ
7用瀬



私たちは鳥取市の用瀬町というところに行きました。そこは歴史ある町であり、古くは城下町として栄えたそうです。現地の学生が丁寧に案内してくださり、古くから伝わる伝統行事「流しびな」などについての説明を聞きました。

また、鳥取の学生たちと、どうすれば用瀬をもっと発展させることができるかについて話し合うワークショップを行いました。学生たちの視点は多種多様であり、とても刺激的で有意義な時間になりました。



←体験と民泊

もちがせ週末住人の家

HP

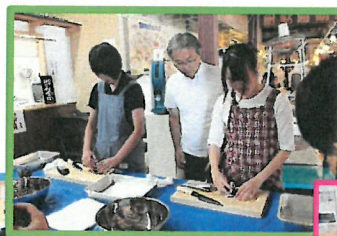
Facebook



※「もちがせの流しびな」…旧暦の3月3日に、男女一對の紙雛を棧俵に乗せ、千代川に流し無病息災を願う民俗行事。

8 鳥取港海産物市場 かろいち

最終日に海鮮市場のかろいちさんにお邪魔し、魚さばき教室を受けさせていただきました。海鮮市場には様々な活きた海産物や、特産品のとうふちくわ、お土産品も数多く並んでいました。私たち5人は、かろいちのお父さんに指導をいただきながら、サバをさばきました。難しい場面もありましたが、料理における貴重な知識を得られました。サバはお刺身とたたきにしました。教室の最後に、一緒にご飯を頂いたのですがそれがもう絶品!!感動しました!メニューはサバの刺身とたたきと、サザエの炊き込みご飯、モサエビの味噌汁でした。海鮮が苦手な私(小林)でもおいしくてお代わりをしてたくさん食べすぎました。また、指導いただいたお父さんやお母さん、周りで盛り上げてくださった従業員の方々の人柄もとても温かくほっこりした、旅の終わりにふさわしい時間でした。



イチ押し!

☆鳥取の食べ物



鳥取県は海産物が盛んであり、中でも、鳥取の名物の一つでもある「**猛者エビ**」はぷりぷりとした食感でとても味わい深いです。また、エビで出汁をとった味噌汁は絶品です。

こちらは鳥取名物「ふろしきまんじゅう」を使った「**ふろしきアイス**」。黒蜜のかかったバニラアイスに、添えられているのはあんこと、なんと凍らせたふろしきまんじゅう。まんじゅうとアイスのマッチングが絶妙です。



☆ゲストハウス



今回のプロジェクトでは、私たちはゲストハウスに泊まりました。ゲストハウスというのは、一般のホテルなどと比べて安価であり、ドミトリー式（いわゆる相部屋）の宿泊施設です。見ず知らずの人たちとの相部屋なので慣れない人には少し泊まりにくい施設です。ですがその反面、方々から来た人たちと、**一期一会の出会いがあるという良き特徴があります**。実際に私たちも、同年代の方たちと会い、交流することができました。これは普通のホテルではできない貴重な体験でした。

また、私たちはこのゲストハウスで、鳥取県庁での発表に向けての**資料作成**、及びそのための**会議**をしました。鳥取県内を歩き、現地の方々にインタビューをしたその日に、その日見聞きしたことをまとめ、感じたことについて意見を出し合いました。また、ゲストハウスの方にもお話を伺い、貴重な意見をいただき、視野を広げることができました。

活動を振り返って



鳥取でいろいろな人に出会うことができました。特に、同じくらいの年齢で地方を活性化しようと行動している姿には非常に感銘を受けました。地方の問題を真剣に考え、友達と議論することもできました。この旅をきっかけに、日本全国への興味が増しました。これからも自分の目で見て、自分の体で体験することを大切にしていきたいです（1年 小林文音）

今回のプロジェクトでは青春18きっぷで鳥取まで行ったり、道路を二〇キロくらい歩いたり、三日で発表の準備をしなくてはならなかったりと辛いこともありました。今となってはいい思い出です。はじめて行った鳥取県は自然が豊かで人が優しい素敵な県でした。またこのプロジェクトに参加したいです。（1年 櫻本汐里）



地域の活性化に携わるような経験を以前からしてみたいと思っていたので、今回ふるさと活動隊の活動に参加したことは非常に貴重な経験になりました。鳥取の住民や県や市の職員の方々、学生たち、ゲストハウスで知り合った人たちなど本当に多くの人と触れ合いながら地域活性化のお手伝いをすることができ、非常に有意義な時間を過ごすことができました。今回の活動を通して学んだことは決して忘れずに今後活かしていきたいです。（3年 高山満里奈）

道中で会った人々や現地の学生にお話を伺うと、地元愛の強さや地元に対する理解の深さを感じました。今回のプロジェクトには「創業者のふるさとを自分の新たなふるさととして捉える」という目的がありましたが、新たなふるさとの前に、自分は第一のふるさとについてしっかり理解しているのか、と見直してみる良い機会にもなりました。（3年 林慶太）



ふるさと活動隊として鳥取を訪れるのは2回目でしたが、前回とはまた違った経験をすることができました。振り返ってみると、体力的にも精神的にも厳しいこともありましたが、それ以上に楽しさと充実感が勝っているように思います。私だけでなく、隊員皆が思っているのではないのでしょうか。ふるさと活動隊で培った学びは将来、きっとどこかに繋がっていくと確信しています。全てのご縁に感謝し、このプログラムで培った経験を大切にしていきたいと思うと同時に、未来のふるさと活動隊の活躍にも期待しています。（4年 深沢あゆみ）

ご協力頂いたみなさま、ありがとうございました！！